

おおくら 議会だより



行ったことがあります？
(清水城跡から清水・合海方面)

もくじ

巻頭特集	2～3P
5月臨時会	4P
6月定例会	5P
一般質問	6～9P
編集部特集（エコプラザもがみ）	10P
議会改革進めています	11P
そうだったの！村議会	12P



発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
印刷／共栄印刷株式会社

巻頭特集

「あの時」そして「これから」

大蔵村の公共の施設運営について、当時を振り返りながら、これからのことを考えていきます。

「まず第一回は」

肘折いでゆ館・

カルデラ温泉館

あの時

「地域の活性化を
合言葉に」

若者就業・地場産業の振興・村民の健康増進・地域間の交流・情報交換の拠点等の目的で、国の「若者定住促進等緊急プロジェクト」の指定を受け、平成6年のカルデラ温泉館竣工から、平成9年の肘折いでゆ館及び周辺施設の整備まで総事業費17億円余りの、村始まって以来の巨大プロジェクト。

村民の皆さんからの様々

なご意見を今後の運営に活かしていくため、改めて振り返ってみます。

■肘折いでゆ館

肘折温泉郷の中核施設として、入湯客の利用以外にも、200人収容の多目的ホールでの様々な催し、温泉療養相談（ドクターアドバイス）や村内の各種団体の会合などの地域活動も合わせた機能を持っています。ピーク時には4万人を超えた時期もあった利用者、現在は2万人台で推移。今年20周年。

■カルデラ温泉館

全国的に珍しいといわれる炭酸泉を利用して、飲泉や寒冷浴槽と高温浴槽の組み合わせ機能を持たせた施設。温泉効能や静かなたずまいを好みリピーターが多いのも特徴。1万7千人前後の利用者数。24年目。



肘折いでゆ館

そして今

最盛期には2施設で7万人を超えた時期もあった来客者。利用者数の減少は他の多くの施設でも同様で、近年は5万人ほどで推移していました。

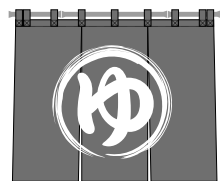
しかし、平成23年3月に東日本大震災が発生し、東北の多くの観光施設と同様に大きく利用者が落ち込み、それに追い打ちをかけるように翌24年春肘折温泉に通じる県道が崩落し、「肘折のぞみ大橋」が完成するまで、足掛け2年に渡り大変不便な迂回路通行を余儀なくされ、肘折温泉全体が大きな影響を受けたことは言うまでもありません。施設の運営も厳しくなり、この間、村が支出する施設の運営費（委託料）を増やす等して現在に至っています。

これから

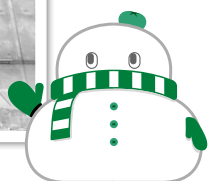
近隣の住民が公衆浴場代わりに利用するタイプの施設と違い、村外から訪れる利用者が多いこの2施設。「交流人口の拡大こそ、肘折温泉郷や村内特産品の利用者増に繋がる」と言われる考えに照らし合わせ、その存在価値を重視する考えもあります。

村の南部に位置する肘折温泉郷と四ヶ村の棚田に多くの人が訪れることにより道路の整備が図られ、冬季の除雪等の維持も充実していることは近隣の住民のみならず村全体の生活の安定に繋がっていると言えます。なにより、この村に住んでいる私たちにとって、心身のリフレッシュ、交流、情報交換の場としての存在価値は高いと言えるのではないのでしょうか。

今年秋には二十周年を迎える記念の年。さらに営業内容を充実させ、利用者の増加につながるよう検討を



カルデラ温泉館



重ねている最中です。まずは、村民の皆さんに利用して頂くこと。そして、率直な声をきちんと反映させて行くことが一番と考えています。皆さんのご意見・ご提案をお寄せください。

2施設の運営状況（当初は第3セクター、現在は指定管理者制で運営を公募～肘折振興(株)が運営。）

年 度	来客者数	運営規模	村の委託料	参 考
H20年度	53,130人	6,300万円	2,200万円	
H21年度	55,050人	6,800万円	2,200万円	
H22年度	45,680人	6,300万円	2,200万円	23年3月に東日本大震災発生、観光客全体が大きく減少。
H23年度	42,270人	6,100万円	2,200万円	
H24年度	25,800人	5,700万円	3,200万円	4月に県道崩落、う回路通行。委託料1,000万円追加。
H25年度	32,190人	6,500万円	3,200万円	12月末のぞみ大橋完成まで、う回路通行続く。委託料追加1,000万円
H26年度	38,830人	6,300万円	2,200万円	
H27年度	39,300人	6,700万円	2,300万円	消費税率アップ、燃料高騰等で委託料100万増
H28年度	37,920人	9,100万円	3,300万円	運営体制見直し、委託料追加1,000万

6月定例会

議案の審議

今回審議された主な議案は

- ・特別職の給与、旅費等に関する条例の制定
- ・（農地利用最適化推進委員新設のため）大蔵村税条例の一部改正
- ・（国の改正等に合わせて条例全般の見直しを図るもの）平成29年度補正予算審議
- ・（一般会計、国保会計、簡易水道、下水道、診療所、介護保険の補正）



6月定例会が8日から9日にかけて行われ、平成29年度の6会計の補正予算審議の他、国の法改正による「農地利用最適化推進委員」の新設により、報酬を定める条例改正や「農業委員」の任命等の審議を行った。また、議案に先立ち3名の一般質問が行われ、活発な議論が交わされた。

人事案件

固定資産評価審査委員会委員の選任、農業委員会委員の任命に同意しました。

◆固定資産評価審査委員

伊藤美恵子氏（清水三） 補欠委員

★農業委員会委員

齊藤 徳美氏（合海）
鈴木 利夫氏（藤田沢）
三條 清美氏（白須賀）
国分 明氏（上竹野）
佐藤 勝氏（滝の沢）
八鍬 信一氏（赤松）
佐藤 昌子氏（清水二）

補正予算

平成29年度補正予算6会計を審議・可決

	補正額	総額	主な補正内容
① 一般会計	1億8100万円	41億5320万円	加工場建設、給与関係の変更
② 国民健康保険会計	60万円	5億4260万円	納付金、還付金の増
③ 簡易水道会計	600万円	3億 330万円	肘折浄水場施設整備調査費追加
④ 下水道会計	240万円	1億7890万円	汚水枳設置工事追加
⑤ 診療所会計	▼90万円	2億3780万円	給与関係の変更
⑥ 介護保険会計	90万円	3億9770万円	給与関係の変更

5月臨時会

5月1日に臨時会を開催し、議会の申し合わせによる、2年ごとの改選を行い、副議長の互選の他各委員の互選を行い、新たな議会体制が発足した。また、専決処分となっていた平成28年度補正予算8件の承認、税条例、国保条例の制定、平成29年度一般会計補正予算の審議を行った。



大蔵村議会組織構成一覧

平成29年5月1日から

議長 鈴木 君 徳

副議長 佐藤 勝 **新**

(2年毎互選)

総務文教常任委員会 (再編成)

委員長 矢口 智
副委員長 中島 幸夫
委員 八鍬 信一
委員 佐藤 勝
委員 早坂 民奈

産業建設常任委員会 (再編成)

委員長 長南 正一
副委員長 加藤 忠己
委員 鈴木 君徳
委員 海藤 邦夫
委員 佐藤 雅之

議会運営委員会

委員長 中島 幸夫 **再**
副委員長 加藤 忠己 **新**
委員 長南 正一 **再**
委員 矢口 智 **新**

(2年毎互選)

最上広域組合委員

鈴木 君徳 ・ 矢口 智 **再**

(2年毎互選)

議会広報調査特別委員会 (再編成)

委員長 矢口 智
副委員長 早坂 民奈 **新**
委員 佐藤 勝
委員 佐藤 雅之

議会選出監査委員

長南 正一

村政を問う

一般質問
6月
定例議会



一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

3議員が一般質問

「議会改革」ここが変わりました

6月定例議会から、一般質問の形式が変わりました。議員は持ち時間の範囲内で何度でも同じテーマについて質問ができるようになり、より深い議論が可能となりました。

また、議員席側に演壇が設けられ、最初の質問から執行部と対面で議論を交わす形となりました。



7p 佐藤 雅之 議員

- 事業者への設備投資促進策は？
- 若者の声は、村政に生かされているか？

8p 長南 正一 議員

- 温泉街の道路整備を急げ

9p 早坂 民奈 議員

- 村は一つ、「オール大蔵」で活性化を

ここが知りたい



佐藤 雅之 議員

中小事業者の設備投資に村の補助を

村長 上乘せ補助を検討

問1 中小の事業経営では、設備や店舗、機械の老朽化が顕在化し、設備等への再投資が経営課題となっている。舟形町でも今年4月から町独自の補助を始めている。地域の建築業者の仕事づくりにもつながる店舗や施設等のリフォーム補助や事業用備品の購入補助を村としておこなってはどうか。



答1 国は平成26年度、従来の政策を転換し、はじめて小規模事業者への直接的な補助制度を創設した。山形県も、本年度新規事業として「中小企業スーパードールサルパ事業」を創設。この事業には、「設備投資等促進事業」や「小規模事業者持続的発展支援事業」が盛り込まれ、国の補助に不採択になった事業をブラッシュアップして取り組むことができる等、充実した補助体制が確立されてきて

若者の声を村政にいかせ 村長 自主性を尊重

いる。本年度の国、県事業への申請を最優先すること。を前提に、温泉地等の特殊性を考慮して村の補助金制度を検討したい。

問2 タイミングが大事。もっと「スピード感」を持って実施を検討してほしい。
答2 国や県の制度に上乘せする形で村独自の助成

問 「まち・ひと・しごと創生法」を受け平成27年度に「若者ミーティング」プロジェクトが開始した。職業や地域の違いを超え将来を考える若者の活動を大いに励まし、村民がその姿を共有すべきだと考える。しかし、活動を保障する予算もなく、活動が一般の村民にはあまり知られていない。村として若者の「やる気」を引き出し、若者の声を村政にも生かすべきではないか。

答 「若者ミーティング」の活動は、マルシェへの参加など、自主的に月1回のペースで事業を展開している。村として直接の予算化はしていないが、必要な事業については、大蔵村地域活性化事業補助金の活用が出来ることは説明している。「若者ミーティング」に新たなメンバーが加入しており、村の今年度新規採用職員もそのネットワークに参加している。

行政主導ではなく、若い世代が自主的に活動を行っていることに重要な意義がある。農業や観光などそれぞれの仕事の分野や地区で、若手リーダーとして活躍している。村として、若者の自主性を尊重し、若者の活躍を村が支援し、多くの村民に活動を周知してゆく。



その他

- 1、「広報おおくら」での若者のページを作り村民に活動を知らせる
- 2、地域おこし協力隊の招へいの面接等に若者からも加わってもらう
- 3、村内外の若手社長や経営者に協力してもらい起業や経営のノウハウを若者に語ってもらう

等の提案を行った。



長南 正一 議員

温泉街の道路整備を急げ

村長 現道の補修を予定

問1

肘折温泉銅山川沿いの道路は、湯治客や地元住民にとっての生活道路であり、温泉街の機能維持にも最重要路線といえる。現状は道幅も極端に狭く、路肩も崩れ、車の通行や人が往來するには危険極まりない。以前も一般質問で取り上げ、改良を求めた。そこで次の点を質問する。

①国土交通省河川事務所や山形県とその後交渉で具体的な進展はあったのか。

②川沿いの道路を拡幅、延

答1

①当該道路区間は、河川管理用通路となっている。現在の状況は、損傷が著しく、路肩部分の欠損も多く見受けられる。これまでも多くの地元の方々から舗装の打ち換え等の要望が寄せられ

た。河川管理者である山形県に舗装の修繕等をお願いしてきたが、県では管理している河川管理用通路の舗装は行っており、財政的にも今後行う予定は無いとのことであった。仮に村道として供用すると、幅員の拡幅や河川への転落防止施設等、交通安全施設が必要となり、これらの施設を設置すると、現況の幅員が更に狭くなるうえ、堤防への掘削・床掘やガードレールの支柱の打ち込みなどで堤防が弱体化するおそれがある。そのことから、当該道路の管理形態は、これまでどおり河川管理用通路として取り扱う。

②当該道路を拡幅し、更に温泉街の中心道路「村道肘折朝日台線」へ接続することは将来の肘折温泉を考えた場合、大変重要な路線とは認識している。

しかし、村道として供用すると先のとおり、道路の幅員が必要となる。当該路線沿いには家屋や旅館等の建築物があり、村道として整備・拡幅することは大変難しい。

③現段階で当該道路の新設改良にむけた目標年次を示すことはできない。

問2

事故が起きてからではマイナス。建前は河川管理用通路でも温泉街に隣接した道路であり、住宅地を離れた河川敷などとは条件が違う。「特区」のような形でどうにかできないか。村ももっと要望し、県も一緒に問題解決にあたってほしい。

答2

当該道路の舗装は過去に村で施工した経緯はある。村としては、肘折温泉という特殊性に鑑み、本年度の測量設計と平成30年度からの舗装損傷度が著しい区間の打ち換えを既に予定している。



肘折銅山川沿い道路



早坂 民奈 議員

村は「オール大蔵」で活性化を

村長 村民一人ひとりが応援団 営業マンに

問1

村ではたくさんイベントがあるが、他の地域の方の参加はどうであろうか。

肘折温泉の利用も村外への発信は多いが、地元住民の利用は？

いわゆる平場と呼ばれている地域と肘折、四ヶ村の間に見えないラインがあり、歯がゆく感じているのは私だけだろうか。人口減少が叫ばれている今こそ、村が一つになり、観光、農業、

答1

合併を経験したことがなく、意識して村内の融和の観点での施策は乏しかった。しかし、村内の事業に多くの村民の参加をして頂くために開催日時等に意を配ってきた。告知はいろいろしてきたが、参加が少ないというところは憂慮すべきである。

少子高齢化、人口減少の

問2 村民が一つになるのに、例として行事等を上げたが、それぞれの地域では担当地区民だけが頑張っているように見える。

もったいない限りである、もっとと広く村民を巻き込めないものか。

答2

村主催ではなく地区主催で行い、役場は影になり、バックアップしている。数値的には、総合的に村民の参加は4割程度である。

問3

小、中一校となり、今の子供たちは、隔たりを感じていない。社会教育の中で、村の良さを体験させながら、積極的に関わりを持つ教育を考え、夢のようだが、村一つになり、温泉街を田植え踊りが練り歩く。将来実現できたら良いのではないか。

答3

学校統合により、ラインはなくなってきた。次世代の若者に夢を与え、産業にこだわらず、体験できる参加型で「オール大蔵」を検討してゆく。



田植え踊り（合海）

議会改革

進めています!!

高知県の小さな村では「議会」がなくなるかも…という最近の話題。私達の村議会が住民に信頼され、そして、次世代に受け継いでいかれるよう、今、真剣に検討を重ねています。



テーマ 「村民に信頼され存在感のある議회를築き
次の世代の挑戦を促すため」

議会報告会の開催

議会の活動内容を知ってもらい、村民の意見、要望、提言などを得て村政に生かしていくため(昨年度から開催。今年も行います)。

議会主催の懇談会の開催
(関係団体との意見交換、情報交換)

村内の様々な団体と意見交換や情報交換を行います(今年から開催予定)。

議会内部改革

従来の運営方法の見直しを図り、次世代に受け入れやすいように変えます。

研修の充実強化と
議員研究会の実施

次世代を見据え、研修・研究の充実強化を図ります。

議員定数、
議員報酬の見直し

「議会」の存在が改めて問われている今、議会の存在意義も含め検討し、改選期前に一定の結論を出します。



※村民の皆さんのご意見をお寄せください!

編集部特集
「最上広域市町村圏事務組合」
の事業紹介

最先端の技術で地球環境を守る

可燃ゴミ焼却施設

エコプラザもがみ

「環境に配慮した施設整備」から15年

鮭川村川口地区に総事業費57億円余りを投じて整備された可燃物焼却施設「エコプラザ」。平成15年2月の稼働から14年を経過し、特に劣化の著しい排ガス処理設備を中心に大規模な改修を実施します。平成29年から30年にかけて、総額12億円近くの大規模な事業となります。

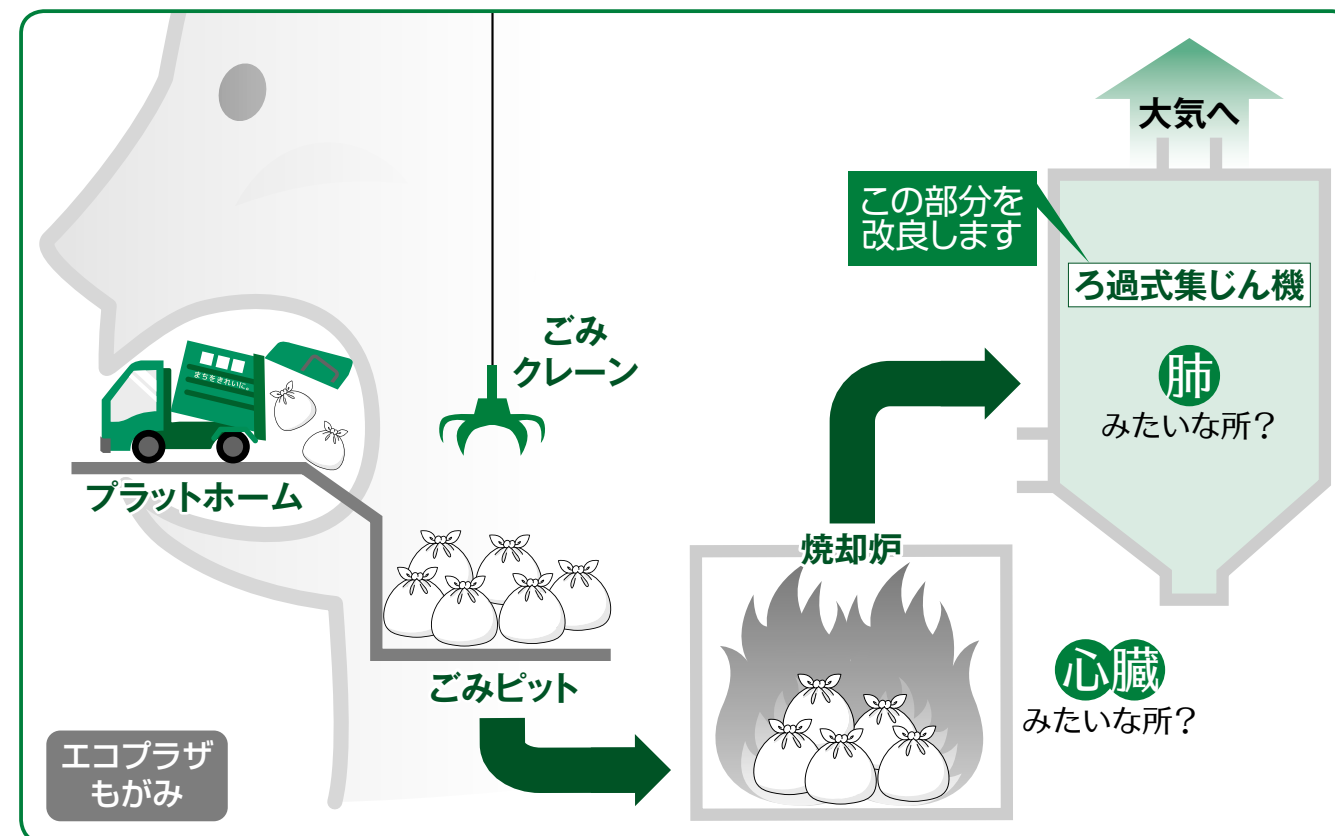
今回の設備改良は、有害物質を除去する「ろ過式集塵機」を新しくする他、国の基準改正で不要になった施設の撤去、コンベヤーの本数を減らし高効率のモーターに変えるなど、今後の維持管理費を抑えることも視野に入れた事業となります。

2年にわたっての大規模な工事になりますが、ごみの焼却運転を行いながらの作業となりますので安心してください。

この更新事業により、今後15年間の施設延命を図る計画となっています。

「有害物質逃がしません」

毎日運ばれてくる可燃ごみは年間2万トンを超えます。焼却炉で焼いた後に「ろ過式集じん機」を通して有害なガスやダイオキシンなどを大気へ逃さない。その大事な機能の更新を行っていく計画です。



そうだったの！ 村議会

村議会の紹介コーナー

No.8

今回も、『議員の仕事』

議会の体制？（組織構成とは）

今年の4月末で議会改選から2年が経ち、議会の組織構成が変わりました。
議会議員は4年の任期ですが、各委員会の他、様々な役割があり2年で再度協議し体制を改めています（4ページの議会構成に名簿を記載）。

議長の任期は4年ですが、副議長と最上広域議員は2年と内規で定めていますし、常任委員会も2年で交代しています。

改めて各々の役割は…



議 長

説明の必要ありませんが、村議会全般の他に、最上町村議会や県町村議会等広域にわたる活動も。

副 議 長

議長を補佐する立場と合わせ、今年から議会改革のリーダーの役割も。

総務文教常任委員会

村の政策全般や財政、消防防災、税務、住民福祉、健康衛生、教育行政に関する調査や研修を行います。（学校訪問・介護施設訪問も）

産業建設常任委員会

産業振興、地域整備、農業委員会に関する調査や研修を行います。
（冬の雪道調査も）

議会運営委員会

議会運営全般の他、議会の会議規則、委員会条例等の調査も。

議会広報調査特別委員会

議会報の編集や編集に関する研修、資料収集などを行います。

最上広域組合議員

最上地区8市町村で運営する消防、ごみ、し尿処理、新庄駅の広域交流センター、教育センターの維持に関すること。

議会選出監査委員

村の出納業務を毎月監査し、適正に運営されているかチェックします。

議会選出農業委員 今年7月から国の法改正により無くなります。

後書き

卯の花のおう垣根に、
卯の花とは、アジサイ科の白い空木（うつぎ）の花である。

この辺では見受けられないが、藤の花が上に向かって咲いていると想像してほしい。

早乙女が裳裾（もすそ）

濡らして

若い娘が田んぼで苗を植え赤い着物の裾が揺れている。なんと抒情豊かな表現だろう。機械化が進み手植えは見られなくなったが、つい30年くらい前はのどかであった。田植えが終わわり、水を張った田んぼでは、カエルの合唱が聞こえている。あつという間に夏が来て、次号では虫の声が話題となっているはず。今年も豊作でありますようにと祈るばかりである。

（早坂 民奈 記）

議会広報調査 特別委員会

委員長	矢口 智
委員長	早坂 民奈
委員	佐藤 雅之
委員	佐藤 勝